

出会い

大阪府立芥川高等学校三年（大阪府）

渡邊 清楓

私にとっての茶道とは「出会い」です。なぜ出会いなのかというと、私が茶道部に入り茶道を始めたことで素晴らしい人達に出会えたからです。コロナで始まりから異例だった私の高校三年間ですが、短いようで濃い時間でした。辛いことも楽しいこともありましたが、私達がコロナ時代だったからこそ得ることが出来た経験が沢山あったと断言できます。

私は高校一年生の時初めて茶道に触れました。母や姉が学生時代茶道部に入っていたことから、私も興味があり茶道をしたいと思っていました。入学式もなく高校生になった実感がない中、お点前を丁寧になし学校について色々話してくれる先輩は私の憧れで、毎回の部活が楽しかったのをよく覚えています。部活動が積極的に始まったのは七月頃で、入部してすぐ文化祭準備が始まりました。コロナ禍での文化祭は異例なことばかりで部員同士の揉め事も

多くなっていき、実施できた文化祭でも反省点が沢山ありました。こんなことばかりで一時期は部活に行くのもしんどいような日々が続いていましたが、これではいけないと思ひ皆で話し合いをしました。一人一人の話をしっかり聞き向き合ったことで苦しい状況を乗り越え、これを機に仲を深めることができました。

そして私は高校二年生になり、初めて後輩ができた茶道部の部長を任せました。この出来事は私を大きく成長させてきたきっかけの出来事だっと思います。当時は色々抜けていて鈍臭い私に部長が務まるのかなと不安しかありませんでしたが、何より部員が「絶対できるよ」と言ってくれました。そして「私は貴方に部長になってほしい」と言うてくださった顧問の先生の言葉が本当に嬉しかったです。きっと私は威厳のあるかっこいい部長にはなれないし、先輩のように後輩に尊敬されるような凄い部長にはなれないけれど、部員にとって良い意味で部長らしくない、部活の雰囲気明るく落ち着く場所にできるそんな部長になろう、そのために私なりに精一杯努力しようと思ひました。それから私は学校での部活動のお点前を人一倍するようにしたり、家に帰ってからもお点前のお稽古をしたり、少しずつではありますが茶道について調べ知識を深めました。

そうこうしているうちに文化祭が近づいてきました。私達が主体で進める大きな行事が初めてだったことや、そも

そも飲食のお茶会が出来るのか分からなかったこともあり、全てが手探りの状態でした。その他にも、去年の文化祭の反省点を踏まえてどんなお茶会にするのか、テーマはどうするのかなど決めることが山積みで、副部長と事前に打ち合わせをしたり、部員と話し合いをして試行錯誤を重ねやつと形になり始めていた、そんな時でした。コロナが爆発的に増え、飲食であるお茶会の実施が難しいと、お茶会を断念することになったのです。ただ悔しかったです。何を言っても仕方がないことだったので、私達が残念だったけれどまた部活を頑張ろうと話していると、それを見かねた先生が十一月頃にお茶会を開くのはどうかと提案してくださいました。テーマも方針もお菓子も台本もまた全てが一からですが、私はこのメンバーで一丸となって頑張れること、一緒に一つのことを成し遂げられることが何より当たり前でないことをこの体験を通して改めて実感することが出来たのです。そして部員全員の努力の甲斐あって無事にお茶会は成功し、来てくださったお客様に素晴らしいお茶会だったと絶賛していただきました。

私にとって茶道とは「出会い」です。同じ時間を過ごしてきた仲間や先生との出会い、お茶会でのお客様との出会い、それらはかけがえのないもので、私はこれからも色々な人と過ごせる時間を悔いのないものにして、出会いを心から大切にしていきたいと思います。